

平成30年度 校内研究 実践報告

研究主題『 深い学びを実現する授業の創造 ～ 新学習指導要領を踏まえて ～ 』

文京区立本郷小学校



6月28日 国語「会話に注意して、登場人物の関係を読み取ろう」
3年1組 北村 奈緒子

のらねこが、物語の中で触れ合ったリョウと、別れる場面ののらねこの心情を考える授業である。物語の叙述に基づき、のらねこリョウの心情の変化を曲線やグラフに表し、視覚化した。また、考えをグループで共有し、まとめていく中で、読みや考えが深まると考えた。友達の発表を聴く意欲を高めたり、読解のポイントを押さえたりするために、「だれのどんな意見に心がときめいたか」ときめきカードに書く時間を設けた。

講師：國學院大學教授 田村 学 先生

- ・意欲的に児童が発言していた授業になった。
- ・児童に第三者視点で考えるさせる場合は、登場人物の関係を図式化する活動を取り入れると良い。

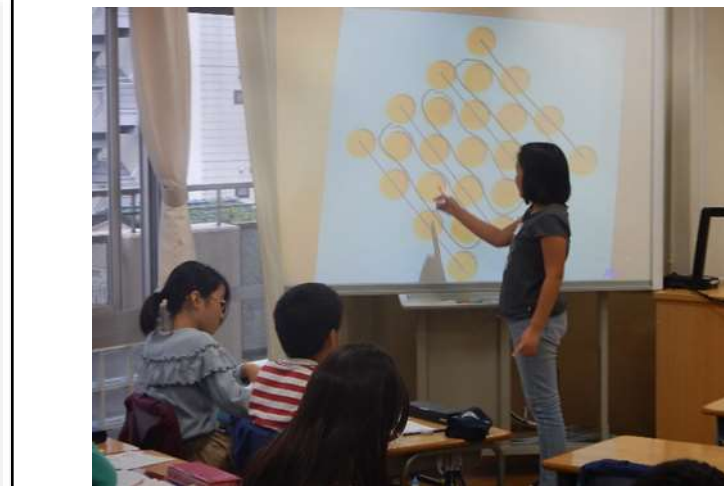


7月11日 社会科「米作りのさかんな地域」
5年3組 倉持 宏史

前半の「つかむ」段階では、新潟県魚沼の米作りを学習することで、国土の自然条件との深い関わりや、食料生産が人々の工夫や努力によって支えられているということを学習した。後半の「いかす」段階では、学んだことから日本の米作りの課題を把握し、日本の米作りの発展について考えていく授業を行った。資料を読み取ったり、話し合いをしたりすることで考えを深め、意見文を書いた。課題に対して自分事として捉え、解決策を考える児童が多くいた。その後、プレゼンテーションソフトを活用してCM作りを行った。

講師：聖徳大学大学院教授 廣嶋 憲一郎 先生

- ・社会科は答えがないため、考える視点が大切である。3つの課題（機械化、会社化、輸出）の提示は良かった。
- ・交流の時に発表だけで終わらず、児童同士の問いかけを増やせるとさらに考えが深まる。



9月25日 算数「計算のやくそくを調べよう」

4年1組 金子 昌代
4年2組 菅井 みなぎ
4年3組 中山 範頭
少人数算数 福田 豊

ドットの数の求め方をまとめたり移動させたりするなど工夫して考え、1つの式に表せるように行った授業である。この授業では、場面から共通するきまりや関係を見付け出し、それを一般化させるなどのよさに話し合いを通じて気付くことができるように取り組んだ。

講師：國學院大學教授 田村 学 先生

- ・習熟度別にコースが分かれており、児童の実態に合わせて授業内容が考えられていた。
- ・今日の授業で一番大切なのは「まとまり」をつくること。まとまりを自覚できた授業であり、子供が考えていける要素があった。



10月22日 図画工作「うつつて みつけて」
2年1組 望月 真理子

本題材ではプロッターージュという技法を扱い、児童が自分の気付いた造形的な特徴から、やってみたいことを決め、自ら活動を展開させて学習を深めていくことを目指した。自分でテーマを選び活動する過程では、活動場所や素材を自ら選べるように設定したことで、活動への意欲が高まり、また自然と周りの友達と関わり合いながら活動が深まった。

講師：文京区教育委員会統括指導主事、指導主事2名（区訪問）

- ・図画工作科における見方・考え方である、造形的な見方・考え方とは、感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくり出すことである。



12月12日 外国語活動「Let's tell myself of the future」
6年3組 小澤 拓也

12歳の私が、今現在、将来就きたい職業について英語でスピーチすることを目指した学習である。本時の学習では、友達同士でのやり取りを通して、既習の英語表現を基にそのことに関する質問をしたり、質問された内容を踏まえて、対話の内容を適切に追加したりする姿が見られた。また、ペアの児童を何度も変えて、活動を繰り返すことで、児童の発表が少しずつ変わっていく様子も見られた。

講師：文部科学省教科調査官 直山 木綿子 先生

- ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築することが大切である。本時の授業ではその場面が見られ、よかった。
- ・相手意識をもって活動に取り組むことができていた。外国語活動のやり取りで大切なことは聞き手を育てること。その部分を育てることがコミュニケーションの充実につながっていく。



10月3日 道徳「なかよしのともだちだからB-(9)」
2年3組 新家 優里

相手の気持ちを考え、友達と仲良くしようとする心情を育てるために、自分の考えを理由をもって相手に伝えようとしたり、友達の考えを聞いて理解や共感を示したりする姿を目指した。そのために、友達が行う役割演技を見たり、登場人物になりきって言った台詞を意見交流したりした。終末では、今の自分についてどのように友達と関わっているか考えることで、自分事として考え学ぶことができるようにした。

講師：聖徳大学大学院教授 吉本 恒幸 先生

- ・自分との関わり、これまでの自分の経験やそのときの考え方、感じ方と照らし合わせながら、更に考えを深める「自己を見つめる」ことが大切である。
- ・役割演技を行った後、演技を見ていた児童に、どんなことを考えたのか意見を求めると良かった。



1月31日 生活科「かぞくにここに大きくせん」
1年1組 伊藤 史代

家族をここにこさせるにはどんなことができるかを考え、家庭でできることに取り組む活動を通して、家族の役割に気付くとともに、自分のことを自分でやることの大切さを知り、自分の役割を積極的に果たすことができるようにするという学習である。家庭での体験を友達と交流したり、家族からの手紙などで家族の思いを知ったりすることで、「自分のことを自分でやること」が大切であることに気付き、これから自分がどんなことに取り組むことができるかを考えることができた。

講師：國學院大學教授 田村 学 先生

- ・児童の理解を明確にする板書の工夫が大切。特に低学年は音声言語だけでなくイラストやマーク等を活用し、ビジュアル化することが重要である。
- ・「自分のことを自分でやること」の具体例を児童からもっとあげさせることで、やることのイメージをもたせることができる。